

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 24日

事業所名 あいわの里子ども療育センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	83.3%	16.7%		
	2	職員の配置数は適切である	83.3%	16.7%	・利用児童のその日の状態や活動内容によって、スタッフを配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮がなされているか	83.3%	16.7%		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	66.7%	33.3%	・月に1度のスタッフ会議を行っている。	・意見が出にくい時もある。 →発言を順番にしたり、事前に「今度の会議はこのような内容でします」と案内することで発言につながっている様子がある。
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	66.7%	33.3%		事業所自己評価として出てきていないが、ご家族様評価として見える化に対する不足が散見される。気づきのフィードバックや支援の様子の可視化などに取り組んでいく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページなどで公開しているか	33.3%	66.7%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	66.7%	33.3%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100.0%	0.0%	・月に一度のスタッフ会議の前に、内部研修を行っている。	・コロナ等の感染症の影響があり、なかなか外部への研修の参加が難しい。 →ZOOMを活用しての研修への参加が出来るようになった
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100.0%	0.0%	・アセスメントの他に日々の送迎時にご家族様とこまめに情報の共有・交換を行っている。	

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	83.3%	16.7%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	83.3%	16.7%		
	12	活動プログラムが固定化しないように工夫している	100.0%	0.0%		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決めこまやかに設定して支援している	83.3%	16.7%	・長期休暇中にしか出来ない課題を取り入れて支援している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100.0%	0.0%	・リハビリスタッフと協力しながら個別、集団活動を取り入れ始めたところである。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83.3%	16.7%		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	83.3%	16.7%	・スタッフ全員がそろうことがないので、付箋を活用している。	・付箋にて振り返り、気づきは共有しているが、支援内容の話まではつながらない。 →付箋を月に1度のスタッフ会議の中で見直し、共有していく。
	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	83.3%	16.7%		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100.0%	0.0%		
関係機関や保護者との連携	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	83.3%	16.7%		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100.0%	0.0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100.0%	0.0%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	83.3%	16.7%		・相談員を介しての連絡になってしまっているが、必要時には関係機関で会議を開き、情報共有・交換を行っている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童がたつ支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	83.3%	16.7%		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ以降する場合、それまでの支援内容などの情報を提供する等している	83.3%	16.7%		
	25	児童発達支援センターや発達障害支援センターなどの専門機関と連携し、助言や研修を受けている	83.3%	16.7%		

	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	33.3%	66.7%		・新型コロナなど感染対策もあり、実施を控えている。 →以前は児童クラブとの交流が図れていたため、今後も感染症の状況に合わせて計画を検討していくこととする。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	83.3%	16.7%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	83.3%	16.7%		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	33.3%	66.7%		
保護者への説明責任等	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	83.3%	16.7%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100.0%	0.0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	33.3%	66.7%		・コロナを含めた感染症の流行で、実施することが難しくかった。 →感染症の流行の状況を見ながら今後は検討していくこととする。
	33	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	83.3%	16.7%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	83.3%	16.7%		
	35	個人情報の取扱いに十分注意している	100.0%	0.0%	・月に1回お便りを作成し発信している。	継続的にお便りを作成しお渡ししている。継続して見える化の推進を図っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100.0%	0.0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	66.7%	33.3%		
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	50.0%	50.0%		・スタッフ及び保護者様への周知が不十分と考えている。 ・実施されているが不十分と感じる。 ・研修などで実施するなど工夫が必要。 ・災害だけでなくミサイルや緊急避難警報など想定した訓練を実施した方がよいと思われる。 <b>策定しているが、疎み合わせや訓練などが不十分な側面も</b> ・実施されているが不十分と感じる。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	66.7%	33.3%		・救出の訓練は実施不十分と思う。 ・火災訓練だけでなく、地震想定や不審者対応など充足する必要がある。 避難訓練中心の対策となっているため、不審者対応訓練や地震時の被害想定をしたトレーニングを実施していく。

非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100.0%	0.0%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	66.7%	33.3%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	66.7%	33.3%		・ご家族様からの情報のみでの対応になってしまっているところがある。 →今後はご家族様にも協力をお願いし、必要時には医師の指示書の依頼をお願いしていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100.0%	0.0%		